

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科			1年
科 目 名	コンピュータ概論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平	
時 間 数	前期：98時間 / 後期： 時間	実務経験：工場の監視・制御系システムのSE・PGとして従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。		
科目の目的と講義内容	本講義は、コンピュータ、及びコンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習する。これらの技術について理解を深めることにより、コンピュータに関する基礎的な知識や、プログラミング学習に必要なソフトウェア、システム設計に関する知識の習得を目的とする。			
目指す検定・資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宅地建物取引士 情報処理能力認定試験 3級、2級1部 ・ 経済産業省 基本情報技術者試験 			
指導方法及び学生に期待すること	講義と確認テストを行い、基本的なITに関する専門用語で自然にコミュニケーションができる。また急速に進化するIT業界において、ニュース等で最新の情報も取り入れることで、新しい知識や技術に興味を持ち、主体的に学べる学生になって欲しい。			
そ の 他	特になし			
	前 期			
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ テクノロジ系の基礎となる情報の基礎理論やハードウェア、ソフトウェア等に関する分野の知識を網羅的に学ぶ。 ・ データベース、ネットワーク、情報セキュリティに関する基本知識を身につける。 ・ システム設計に関する基礎的な知識や計算を身につける。 <p>学ぶべき用語や範囲が広いため、問題集で知識の確認をしながら確実に身に付けていく。</p>			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な用語や考え方を身につけることを目的とする。 ・ データベースに関する基礎的な知識が説明できる。 ・ ネットワークに関する基礎的な知識が説明できる。 ・ 情報セキュリティに関する必要な知識が説明できる。 ・ システム設計に関する基礎的な知識の説明や計算ができる。 			
成 績 評 価 方 法	授業内試験 (95%)、出欠席 (5%)			
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論 (ウィネット) システム開発技術 (ウィネット) マネジメントと情報化 (ウィネット) 			

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科 1年		
科目名	ネットワークセキュリティ	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期 ・後期・通年	担当教員	妹尾 潤
時間数	前期：30時間 / 後期： 時間	実務経験：システムエンジニアとして、上流工程から下流工程、運用フェーズと幅広く従事した経験を活かし、実習指導を行う。	
科目の目的と講義内容	本講義は、コンピュータ、及びコンピュータに関わる様々な基本原理や基礎技術について学習する。これらの技術について理解を深めることにより、コンピュータに関する基礎的な知識や、プログラミング学習に必要なノウハウ、システム設計に関する知識の習得を目的とする。		
目指す検定・資格	<ul style="list-style-type: none"> ・サテファイ 情報処理能力認定試験 3級、2級 1部 ・経済産業省 基本情報技術者試験 		
指導方法及び学生に期待すること	講義と確認テスト行い、基本的な IT に関する専門用語で自然にコミュニケーションができる。また急速に進化する IT 業界において、ニュース等で最新の情報も取り入れることで、新しい知識や技術に興味を持ち、主体的に学べる学生になって欲しい。		
その他	特になし		
	前 期		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク、情報セキュリティに関する基本知識を身につける。 学ぶべき用語や範囲が広いため、問題集で知識の確認をしながら確実に身に付けていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な用語や考え方を身につけることを目的とする。 ・ネットワークに関する基礎的な知識が説明できる。 ・情報セキュリティに関する必要な知識が説明できる。 		
成績評価方法	授業内試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理試験合格へのパスポート システム開発技術（ウィネット）		

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科			1年
科目名	プログラミング I	科目区分	一般科目 ・ 専門科目	
開講期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担当教員	小池 はるか	
時間数	前期：70時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、IT系の講師としての経験を活かし、オブジェクト指向を用いたプログラミングができるように講義する		
科目の目的と講義内容	プログラムの基礎として JAVA を学習し、順次・分岐・繰り返しの3つの構文や配列を扱えるようになる。オブジェクト指向の考え方を学習し、オブジェクト指向を用いたプログラミングができるようになる。			
目指す検定・資格	サーティファイ Java プログラミング能力認定試験 3級 (7月)			
指導方法及び学生に期待すること	座学と実習を組み合わせた複合的な授業展開。最低限、Java3級が取得できる程度の知識を身につけることを期待する。			
その他	特になし			
	前 期			
授業の概要	・オブジェクト指向の基本概念の理解 (インスタンスとクラス、コンストラクタ、カプセル化、継承、インタフェース、多態性)			
到達目標	オブジェクト指向プログラミングの基本的概念を理解し、オブジェクト指向を用いた Java 言語プログラミングができるようになる。			
成績評価方法	期末試験 (70%)、授業中課題 (20%)、出席率 (5%)、授業態度 (5%)			
テキスト・副読本	【テキスト】 スッキリわかる Java 入門第4版 (インプレス社)			

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム 学科 1年		
科目名	アルゴリズム概論	科目区分	一般科目 ・ 専門科目
開講期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担当教員	近藤 進介
時間数	前期：77時間 / 後期： 時間	実務経験：ミドルウェア、IaaS システムの開発に従事。その経験をもとに、現場で生きる能力・知識を習得できるよう講義をおこなう。	
科目の目的と講義内容	プログラム作成時に必要なアルゴリズムについて学習を行う。プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に理解する。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身につける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度を深める。また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
目指す検定・資格	・サテファイ 情報処理能力認定試験 3級		
指導方法及び学生に期待すること	座学と演習をベースに演習ではグループ学習を行い、お互いに説明をしあいながら、アルゴリズムの流れや考え方を身につけて欲しい。		
その他			
	前 期		
授業の概要	プログラムの流れを考え、定められた記号を使い記述するものであるため、正解が一つではない事を第一に理解する。基礎でパターン化された手順を学び、その後、応用問題を解く事により理解度を深める。また別の記述形式として疑似言語も学ぶ。		
到達目標	基礎的なアルゴリズムの流れ、考え方を身につけることを目的とする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身につける。		
成績評価方法	授業内試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テキスト・副読本	情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造 ウイネット		

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科			1年
科目名	ビジネスアプリケーション演習	科目区分	一般科目 ・ 専門科目	
開講期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担当教員	小池 はるか	
時間数	前期：30時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、IT系の講師としての経験を活かし、Excel3級が取得できるように講義する		
科目の目的と講義内容	Windowsの操作に慣れていない学生、Excelを使用したことがない学生もいるため、Windows操作方法の確認、Excelでは操作方法の確認、各関数を使えるようにする。実際にパソコンを使用して、確実に処理が行われているか確認しながら、エクセル2級検定の合格レベルまで引き上げていく。			
目指す検定・資格	サーティファイ Excel表計算処理技能検定3級			
指導方法及び学生に期待すること	随時初めて使用する機能や関数が出てきた場合には、問題を解かせる前にプロジェクターを使用して前で解説を行う。 学生同士で聞き合える環境づくりに徹し、主体的に学ぶ姿勢を養う。			
その他				
	前 期			
授業の概要	Windows11の基本操作及びショートカットなど実用に役立つ技術を学ぶ。表計算ソフト(MicrosoftExcel2019)の基本的なしくみと特徴(計算・グラフデータベース等)を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。			
到達目標	Windowsの基本操作を理解する。表計算ソフトの基本機能と操作方法を習得する。関数を使った簡単な表を作成し、必要に応じて並べ替えやフィルターを設定できるようにする。			
成績評価方法	検定結果・期末試験(95%)、出欠席(5%)			
テキスト・副読本	Windows11 やさしい教科書			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1年
科 目 名	ビジネス実務 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平 小池 はるか
時 間 数	前期：39 時間／後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時から就職を意識し、「働く意味」を理解させ、自己分析を行っていく。 ・ 社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。 		
そ の 他	時事問題に触れる時間を、積極的に取り入れる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事に全力で取り組む。 ・ キャリアの授業を取り入れ、働く意味を知り、自己分析を行っていく。 ・ 社会人としてのマナーを身に付け、実践していく。 		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力ができる。 ・ マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。 		
成 績 評 価 方 法	前期試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ul style="list-style-type: none"> ① ビジネスマナー基本テキスト (日本能率協会マネジメントセンター) ② 就職活動ワークブック (日本能率協会マネジメントセンター) ③ プリント・ 		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1年
科 目 名	ビジネス実務Ⅱ	科 目 区 分	一般科目・専門科目
開 講 期	前期・後期・通年	担 当 教 員	田中 優平 小池 はるか
時 間 数	前期： 時間／後期：76時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容とする。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の強みを知り、効果的に自分を伝える方法を学ぶ。 ・社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。お 		
そ の 他	時事問題に触れる時間を、積極的に取り入れる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の就職対策に向け、自己分析、履歴書作成、業界分析を行う。 ・社会人としてのマナーを身に付け、実践していく。 		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な個人目標設定ができ、それに向かって努力ができる。 ・マナー・礼儀を身に付け、社会人としての判断ができる。 		
成 績 評 価 方 法	前期試験 (95%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<ol style="list-style-type: none"> ① ビジネスマナー基本テキスト (日本能率協会マネジメントセンター) ② 就職活動ワークブック (日本能率協会マネジメントセンター) ③ プリント・ 		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1年
科 目 名	プログラミングⅡ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小池 はるか
時 間 数	前期： 時間 / 後期：24 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、IT系の講師としての経験を活かし、オブジェクト指向を用いたプログラミングができるように講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	文字列、日付操作、コレクション、例外について学び、基本的なAPIを活用したJavaプログラミング技術を修得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	・ サティファイ Java™プログラミング能力認定試験2級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	実技演習と合わせて、サティファイ Java™プログラミング能力認定試験2級 過去問題を中心に、一問一問理解を深め、各分野の基礎力を高め、応用力を付けさせることで合格を目指す。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字列、日付操作、コレクション、例外について学ぶ。 ・ 問題を解くことで、問題に慣れ、さらなる実力アップをはかる。 ・ Java™プログラミングにかかわる知識を身につける。 ・ 検定の合格を目指す。 		
到 達 目 標	・ 各検定 60点以上		
成 績 評 価 方 法	筆記試験 (90%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	スッキリわかる Java 入門 (インプレス)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1年
科 目 名	情報リテラシー	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平
時 間 数	前期： 時間 / 後期：26 時間	実務経験：工場の監視・制御系システムのSE・PGとして従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	サーティファイ検定の取得を目指し、コンピュータ用語の確認、言語問題のトレース力の強化等、分野ごとに総仕上げを行う。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	・サーティファイ情報処理技術者能力認定試験 2級		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	サーティファイの過去問題を中心に、一問一問理解を深め、各分野の基礎力を高め、応用力を付けさせることで合格を目指す。 苦手分野を克服しながら、クラス一丸となって合格を目指す。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解くことで、問題に慣れ、さらなる実力アップをはかる。 ・情報処理にかかわる知識を身につける。 ・検定の合格を目指す。 		
到 達 目 標	・各検定 60点以上		
成 績 評 価 方 法	サーティファイ検定結果 (50%)、授業内試験 (45%)、出欠席 (5%)		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	サーティファイ情報処理能力認定委員会 情報処理技術者能力認定試験 2級問題集		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1 年
科 目 名	プレゼンテーション技法	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小池 はるか
時 間 数	前期： 時間 / 後期：18時間	実務経験：講師としての経験を活かし、学生がプレゼンテーションに関する技法を習得できる様、講義を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	PowerPoint2019 を使用し基本的な操作方法を理解する。また、実際のプレゼンテーションの演習を行う		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	実際の操作をプロジェクターを使用して解説を行う。 学生同士で聞き合える環境づくりに徹し、主体的に学ぶ姿勢を養う。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	プレゼンテーションの組み立て方を学ぶ。 PowerPoint の基本操作を身につける。		
到 達 目 標	PowerPoint を利用し実際のプレゼンテーションを行うことができる。		
成 績 評 価 方 法	制作物(90%)、授業態度(5%)、出欠席(5%)		
テキスト・副読本	30時間でマスター Office 2019 (実務教育出版株式会社)		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1 年
科 目 名	キャリア実習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平 小池 はるか
時 間 数	前期：時間 / 後期：40時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>企業等で、短期間で集中して、実際の仕事や職場の状況を体験し、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができるようにする。</p> <p>また、実習後、しっかりとした職業意識をもって、何を学ぶ必要があるのかを認識し、学習効果をより向上させる。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前に学内で事前指導を行う。実習の目標設定、個人情報への取扱いや守秘義務、心得やマナーについて理解する。 ・実習中、定期的に教員に報告をし、必要に応じて指導や支援を行い、より効果的な実習に繋げる。 ・実習終了後、個人で振り返りを行う。さらに、実習成果報告会を行い、実習を通して得たこと、学んだことを受け入れ先企業の担当者に向けて発表をする。 		
そ の 他			
	後期		
授 業 の 概 要	めざす業界・職種企業等で、実際の業務の流れや仕事のやりがい等を体感する。		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができる。 ・実習後、各自がしっかりとした職業意識をもって、主体的に学ぶことができる。 		
成 績 評 価 方 法	実習評価表（85%）、成果報告書（10%）、出欠席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本			

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科			1年
科目名	情報処理技術者 I	科目区分	一般科目 ・ 専門科目	
開講期	前期 後期 通年	担当教員	田中 優平	
時間数	前期： 時間／後期：88 時間	実務経験：工場の監視・制御系システムの SE・PG として従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。		
科目の目的と講義内容	情報処理技術者試験（基本情報技術者試験）の取得を目指し、コンピュータ用語の確認、言語問題のトレース力の強化、午後問題の分野ごとに総仕上げを行う。			
目指す検定・資格	基本情報技術者試験			
指導方法及び学生に期待すること	基本情報技術者試験の過去問題を中心に、一問一問理解を深め、各分野の基礎力を高め、模擬試験を通して、応用力を確認し合格を目指す。 苦手分野を克服しながら、クラス一丸となって合格を目指す。			
その他	なし			
	後 期			
授業の概要	基本情報の午前免除者は、午後分野を集中して、問題慣れから実力アップをはかる。午前問題がある学生は、並行して午前問題も解いて、合格を目指す。			
到達目標	午前問題 600 点以上 午後問題 600 点以上 合格を目指す。			
成績評価方法	本試験の点数（95%） 出席率（5%）			
テキスト・副読本	基本情報の過去問題・解説 模擬試験			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1 年
科 目 名	データベース基礎	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平
時 間 数	前期： 時間 / 後期：30 時間	実務経験：工場の監視・制御系システムの SE・PG として従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	データベースの重要性を理解し、構築・運用の技術を身に付けるために、SQL によるデータベース操作を実習を交えながら学習する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	データベースの構築を座学と実習を組み合わせる。基本的なデータベース構築・運用が出来るようになって欲しい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	テキストを中心に座学と実習を行い、データベースの構築・運用技術を身に付ける。		
到 達 目 標	基本的なデータベース構築・運用が出来るレベルの知識・技術の修得。		
成 績 評 価 方 法	(1) すべての実習課題を提出している。 (2) 科目終末試験 (95%) 出欠席 (5%) 以上から総合的に評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト：3ステップでしっかり学ぶ MySQL 入門		

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科			1年
科目名	プログラミングⅢ	科目区分	一般科目	・ 専門科目
開講期	前期	後期	通年	担当教員 藤浦 理恵
時間数	前期：時間 / 後期：59時間		実務経験：大手企業で、SEとして長年システム設計業務に従事した経験を活かし、実務に則した指導を行う。	
科目の目的と講義内容	Javaの実践的な文法及び、オブジェクト指向を用いた高度なプログラミングができるようになる。			
目指す検定・資格	サーティファイ Java プログラミング能力認定試験2級（2月）			
指導方法及び学生に期待すること	座学と実習を組み合わせた複合的な授業展開。学生には課題の取り組みと他者をフォローしあうことで学びを深めて欲しい。			
その他	特になし			
	後 期			
授業の概要	・ Javaによる実践的な処理とデータ構造の理解			
到達目標	・ プログラミングⅠの範囲に無かったメソッド、ライブラリの使用方法を学習し、より高度なJavaプログラミングができるようになる。			
成績評価方法	期末試験（95%）、出欠席（5%）			
テキスト・副読本	【テキスト】 スッキリわかる Java 入門 実践編（インプレス社）			

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科 1年		
科目名	HTML・CSS	科目区分	一般科目・ 専門科目
開講期	前期・ 後期 ・通年	担当教員	小池 はるか
時間数	前期： 時間 / 後期：41時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、IT系の講師としての経験を活かし講義する	
科目の目的と講義内容	Webアプリケーションのフロントエンド部分の開発を行うのに必要不可欠なHTMLとCSSの技術について学習する。1つのWebサイト作成を題材として作成していくことで、Webプログラミングの技術も身につける。		
目指す検定・資格			
指導方法及び学生に期待すること	各自のPCで、実際にHTML+CSSを使って、Webサイトを作成する。 最終的には、複数ページに渡るWebサイトを個人の力で作れるようになることを期待する。		
その他			
	後 期		
授業の概要	HTML+CSSを使って、Webサイトを作成する。その中でWebの技術のものに少し触れ、HTML+CSSの部分だけでなく、Webアプリケーションとしての体系的な知識も身につける。		
到達目標	・複数ページに渡るWebサイトを個人の力で作れるようになる。		
成績評価方法	期末試験（70%）、提出物（20%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	30時間でマスター Webデザイン 改訂版 （実務教育出版株式会社）		

講 義 の 内 容				
項目	項 目	到 達 目 標	テキスト	時間

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム 学科			1年
科目名	システム開発 I	科目区分	一般科目	・ 専門科目
開講期	前期	・ 後期	通年	担当教員 藤浦 理恵
時間数	前期 時間 / 後期 : 61 時間		実務経験 : 大手企業で、SE として長年システム設計業務に従事した経験を活かし、実務に則した指導を行う。	
科目の目的と講義内容	システムを開発するうえでの基本的な手法として、ウォーターフォールモデルで基本設計から外部設計までを行う。			
目指す検定・資格				
指導方法及び学生に期待すること	グループで行うため、創意工夫することを期待する。			
その他				
	後 期			
授業の概要	システム開発の手順と書類作成を学ぶ。			
到達目標	基本設計書の作成、外部設計書の作成をもとにプログラミング前にどのような事を考える必要があるのかを理解し、今後のプログラミングに活かす。			
成績評価方法	期末テスト (95%)、出欠席 (5%)			
テキスト・副読本	図解入門 よくわかる最新 システム開発者のための仕様書の基本と仕組み (秀和システム)			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科			1年
科 目 名	プログラミング演習 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平	
時 間 数	前期： 時間 / 後期：20 時間	実務経験：工場の監視・制御系システムの SE・PG として従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。		
科目の目的と講義内容	プログラミング学習環境 TeccFUL を活用し、実技演習答練を行う。			
目指す検定・資格	サーティファイ Java™プログラミング能力認定試験 2級			
指導方法及び学生に期待すること	多くの演習問題をプログラミングする。プログラミング力の向上を期待する。			
そ の 他				
	後 期			
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習問題を解くことで、問題に慣れ、さらなる実力アップをはかる。 ・ プログラミング学習環境を活用してプログラミング力、トレース力を向上させる。 			
到 達 目 標	サーティファイ Java™プログラミング能力認定試験 2級合格点			
成 績 評 価 方 法	検定結果（サーティファイ）（50%）、授業内試験（45%）、出欠席（5%）			
テキスト・副読本	サーティファイ Java™プログラミング能力認定試験 2級 過去問題集			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科		1年
科 目 名	Linux I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	田中 優平
時 間 数	前期：時間 / 後期：51時間	実務経験：工場の監視・制御系システムのSE・PGとして従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	LinuC レベル1に合格できるレベルの知識・技術を修得することを目的とする。主にネットワーク上でLinuxを活用する、特にWebサーバーとして構築・運用することを想定した出題範囲の問題を解けるように基礎から学習する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	LinuC レベル1試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	Linuxの基礎がわかるように、座学を中心に学習内容の確認のために、Linuxサーバーの構築、コマンドの動作等の実習を間に含めている。 Webサーバーの仕組みや構成を理解し、CUIによる操作に慣れること、基礎を身に付けDockerやAWSといったクラウドのサーバー構築技術へのステップアップを期待する。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	テキストを中心に講義と実習を行い、linuxの操作、サーバーの構築を学ぶ。		
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自力で簡単なサーバー構築が行える技術レベルの修得 ・ LinuC レベル1に合格できるレベルの知識の修得 		
成 績 評 価 方 法	(1) すべての実習課題を提出している。 (2) 科目終末試験 (95%) 出欠席 (5%) 以上から総合的に判断する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト：ゼロからわかるLinuxサーバー超入門 ubuntu対応版		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	情報システム学科			1 年
科 目 名	ネットワーク演習	科 目 区 分	一般科目	・ 専門科目
開 講 期	前期	・ 後期	・ 通年	担 当 教 員 田中 優平
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 50 時間		実務経験：工場の監視・制御系システムの SE・PG として従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	情報通信技術の進展は目覚ましく、最近では、携帯電話やスマートフォン、インターネットの急速な普及により、変革のスピードは一層加速している。本科目では、通信ネットワークの基本技術、及びこれらのシステムを実現するために必要となるキー技術の概要を講義する。			
目 指 す 検 定 ・ 資 格				
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	授業中、教員からの一方通行ではなく、「なぜそうなるのか」等を考え、必要ならば質問をし、授業時間の中でその仕組みと動作の概要を理解できるように積極的に行動することを期待する。			
そ の 他				
	後 期			
授 業 の 概 要	テキストを中心とした座学で知識を修得し、HUB やルーターを用いた演習でローカルネットワークを構築し、実際のネットワークの基礎技術を習得する。			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信ネットワークの基本技術を理解する。 ・ ネットワーク構築および運用を理解する。 ・ ネットワーク設定の方法を習得する。 ・ セキュリティに関する知識を習得する。 			
成 績 評 価 方 法	科目終末試験 (95%) 出欠席 (5%)			

令和6年度 シラバス

学科・学年	情報システム学科			1年
科目名	システム運用概論	科目区分	一般科目	・ 専門科目
開講期	前期	・ 後期	・ 通年	担当教員 田中 優平
時間数	前期：時間 / 後期：40時間		実務経験：工場の監視・制御系システムのSE・PGとして従事。その経験を活かし、グループでの活動も交えながら、社会人として組織での活動に活かせるよう講義する。	
科目の目的と講義内容	システム運用分野の最前線で活躍されている株式会社日本テクノ様の方を講師として、ITシステムの運用業務について職種の概要から実業務、必要となるスキル・基礎知識を取得する。			
目指す検定・資格	特になし			
指導方法及び学生に期待すること	システム運用の概要・業務内容と、前期に学習した基本情報技術者試験の午前問題範囲と紐づけて教えることで、就職した後の業務イメージを付ける。企業様との連携授業となるので、普段関わることのない現場のエンジニアの方へ積極的に質問を行い、一つでも多くの技術を学びとることを期待する。			
その他				
	後 期			
授業の概要	システム運用業務の全務に関する知識技術を習得する。			
到達目標	システム運用とシステム開発業務の役割を把握し、システム運用だけでなく、開発も含めたシステムライフサイクル全体を理解する。それにより、一歩先を見据えたシステムの基盤支えるエンジニアになるための土壌を身に付ける。			
成績評価方法	筆記試験（90%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）			
テキスト・副読本	テキスト：独自開発テキスト			